

厚いアルバムや黄ばんだ手紙の束、古い衣類……。四月中旬、ある市営住宅の1DK。一人暮らししていた八十歳の男性の遺品が運び出されている。

作業を請け負うのは愛知県刈谷市のキーパーズ。二年半前に登場した遺品処理の専門会社だ。遺族や大家の依頼で故人宅を片づけ、不用品を処分、部屋を清掃する。月約百件の依頼の六、七割は独居高齢者宅だ。

単身世帯1290万人

「私が死んだら、後片づけをお願いしたい」。社長の吉田太一(40)には最近、こんな相談も舞い込む。単身世帯は全国に千二百九十万人。東京都

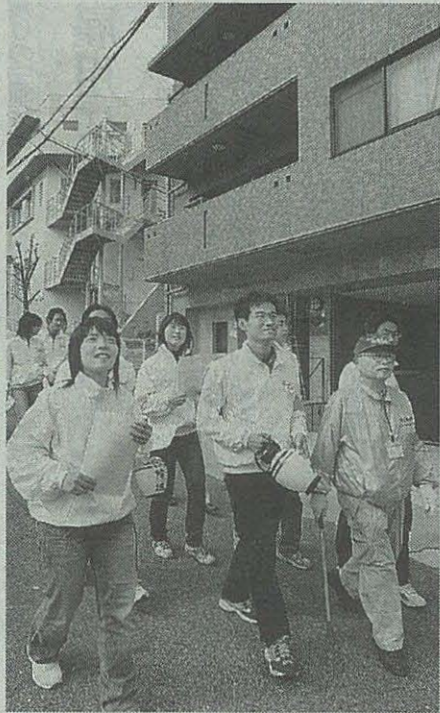
孤独和らげる「合い鍵」

未知なる家族

第5部 きずな探しが始まる①

な話もただ、うなずいて聞く。「今日声を出したのは初めて」と喜ぶお年寄り。二時間で一万円。仕掛け人は保育所運営などのインターナショナルウインズ商事(東京)社長、和田吉弘(38)だ。自身も「孤独を実感する」シングルである。

「大シングル社会」にビジネスも対応している。親族らに代わり、賃貸住宅の保証人役を引き受けるオリエントコーポレーションのサービス。不動産管理会社と組み、契約件数は五年前の八倍に膨らんだ。



地元住民と一緒に地域のパトロールをする学生たち(神戸市灘区)

「悲しみにも友があり、耐え忍ぶにも仲間がいるとなれば、心の苦しみも大分、楽になるものだ」
シェークスピア「リア王」

晩婚化や離婚の増加。都市部では四十代独身がほぼ四人に一人を占める。若い世代も「ひとり」を見据える。都内の教育関連企業に勤める佐野智子(34)は一人暮らしに不安はな

さにつけ込む犯罪は多発。また災害に巻き込まれるリスクもある。神戸市灘区高羽町。学生と住民の合同パトロール隊が目光らせる。灘区では昨年、空き巣被害が四百件以上と前年より五割も増え、うち半数が近くの神戸大の学生らワイルドマンションに集中した。「他人事ではない」。中山卓也(21)は学生有志に防犯活動を呼びかけた。被害は激減。「心強い活気も出る」と地域の防犯グループ会長、小谷寿(78)。マナーが悪い、顔が見えないと疎まれが